

廃棄物分野における開発ニーズ(課題)

- 医療廃棄物用焼却炉の導入を含む医療廃棄物管理(Health-Care Waste Management: HCWM)の改善が解決すべき喫緊の課題である。
- COVID-19関連保健セクター会合では、感染性含む医療廃棄物の適切な管理のため、保健省から医療廃棄物用焼却炉の必要性が示されている。

提案製品・技術(半乾留負圧焼却炉(クスクス))

- 焼却可能な廃棄物対象範囲が広い
- 処理性能が高く約20分の1まで減容可能。
- 経済性が高く使用電力が少ない。
- 機動性が高くコンクリート地盤があれば設置可能
- 低い環境負荷で日本の基準値の1/100
- 幅広い価格帯のラインナップがそろう

本事業の内容

- 契約期間: 2021年4月~2022年5月
- 対象国・地域: パプアニューギニア国ポートモレスビー市
- カウンターパート機関: パプアニューギニア国首都区廃棄物処理課
- 案件概要: 半乾留負圧焼却炉(クスクス)の導入による現地処理場、公共・民間医療施設の医療廃棄物処理改善に資する案件化調査。本事業を通じクスクスの現地普及のための事業を形成し、ひいてはパプアニューギニア国の適切な感染性含む医療廃棄物管理(HCWM)能力向上への貢献を目指す



半乾留負圧焼却炉(クスクス)

開発ニーズ(課題)へのアプローチ方法(ビジネスモデル)

- 現地営業代行にクスクスの現地販売代理店を発掘・管理してもらう。営業代行が発掘した現地販売代理店にクスクスの販売権を渡し、同代理店がエンドユーザーである州政府(最終処分場や公的医療機関)や民間医療機関に販売し、クスクスをPNG全土に普及する。
- 将来は現地営業代行と共同事業体を形成し、PNG以外の太平洋島諸国へ普及する。

対象国に対し見込まれる成果(開発効果)

- 病院で医療廃棄物が適切に廃棄されるようになり、医療従事者が針刺しや切創、被曝、感染する危険が減少する
- 最終処分場で医療廃棄物が適切に処分されるようになり、周辺環境や住民への健康被害がなくなる
- 感染性含む医療廃棄物の適切な管理を実現することで、COVID-19やHIV/AIDSなどの感染症予防効果